

令和3年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和3年12月～令和4年1月

3 調査の概要

- ・小学校5年生と中学校2年生の全ての児童生徒を対象
- ・市内の小学校27校、中学校8校全ての小中学校で実施

〈調査への回答者数〉

小学校5年生 815人

中学校2年生 780人

合計 1,595人

4 備考

本報告書において、

- ・スマホ等とは、スマホ(スマートフォン)またはケータイ(従来型の携帯電話)のことを表す。
- ・小学生とは、小学校5年生、中学生とは、中学2年生を指す。

令和4年4月

津山市教育委員会
学校教育課

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概 要 〉

①スマホ等の所持率

- ・自分の使うスマホ等を持っている割合は、小学生48.2%、中学生78.3%であり、増加を続けている。
- ・持つきっかけは、小中学校ともに、「家族との連絡のため」が最多であった。

②長時間利用の割合

- ・平日1日に平均2時間以上使用している割合は、小学生32.5%、中学生56.7%となった。

③スマホ等を利用する時

- ・スマホ等をよく利用する時は、小学中学校ともに「自宅で家族といるとき」、「自宅で一人有的时候」が多い。

④家にいるときに何に利用しているか

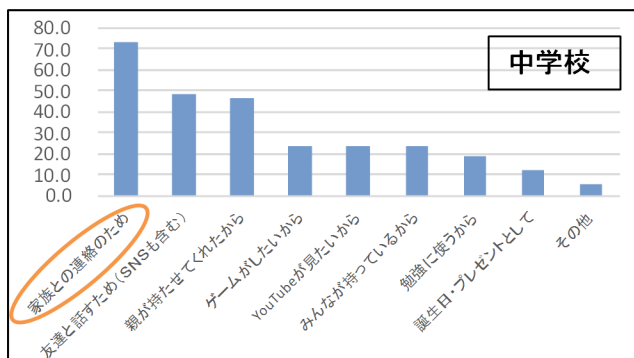
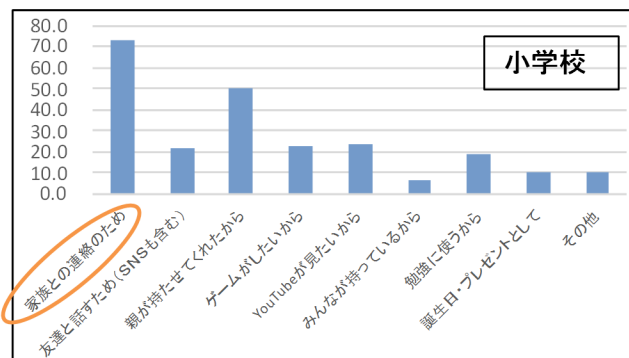
- ・小学校は、「ゲーム」、「音楽や動画の視聴等」の順に多く、中学校では、「友達との会話(SNS含む)」が最多となり、次で「音楽や動画の視聴等」が多くなっている。

① スマホ等の所持率(%)

	小学校	中学校
R1	43.5	73.3
R2	43.9	75.7
R3	48.2	78.3

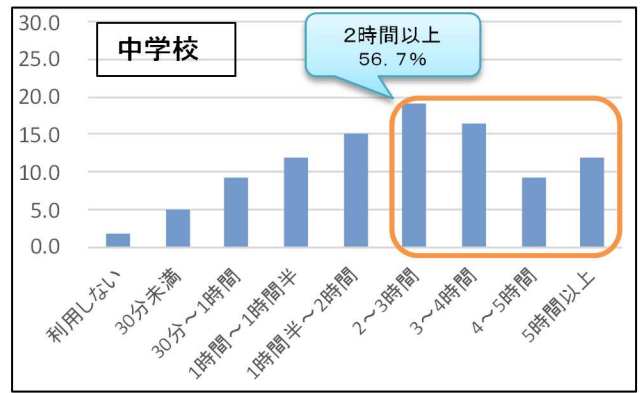
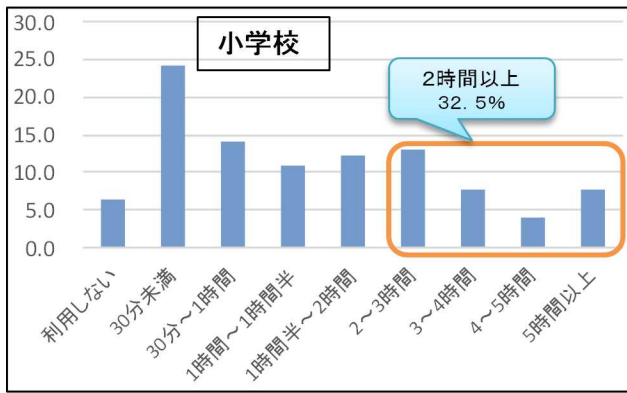
小中学校ともに上昇を続けている

・持つきっかけは？(%)【複数回答】



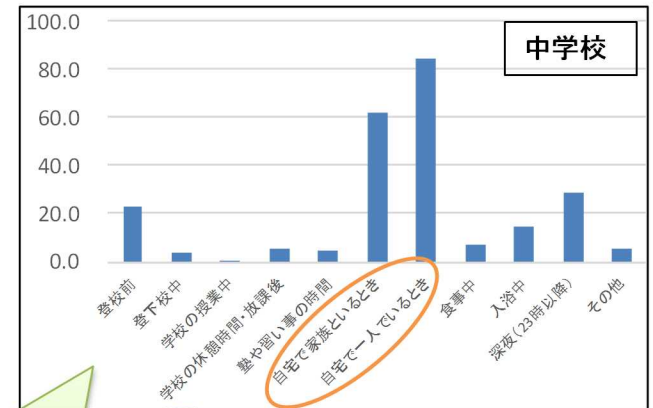
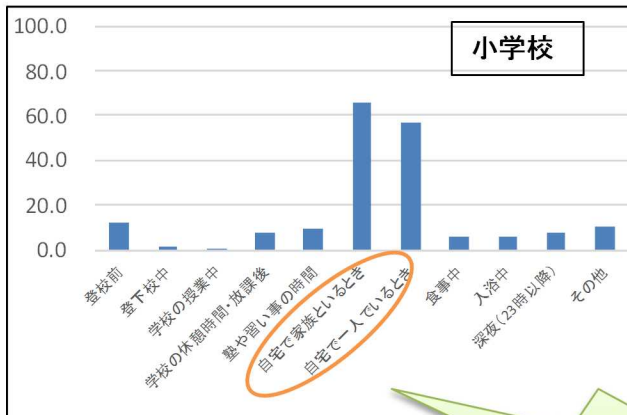
きっかけは「家族との連絡」が最多。その後の使用状況は？

② 平日1日のスマホ等の利用時間別割合(%)



参考 (R2)2時間以上 小学校:26.1% 中学校:59.6%

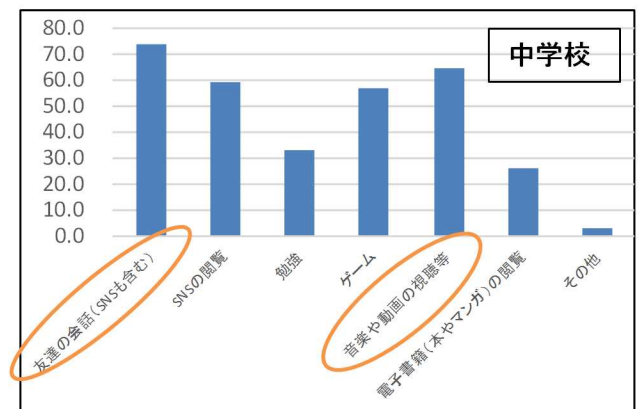
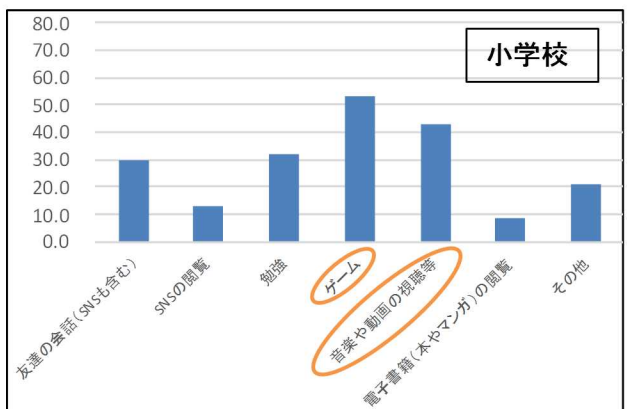
③ スマホ等をよく利用する時(%)【複数回答】



持つきっかけ
とのずれ！

結局、何に利用しているのか？

④ 家にいるときにスマホ等を何に利用しているか？(%)【複数回答】



(2) スマホ等への依存について

〈 概 要 〉

① スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために減った時間が「ある」

- ・スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために「減った時間がある」と回答した割合は、小学生29.8%、中学生37.2%であった。

② 減った時間の具体

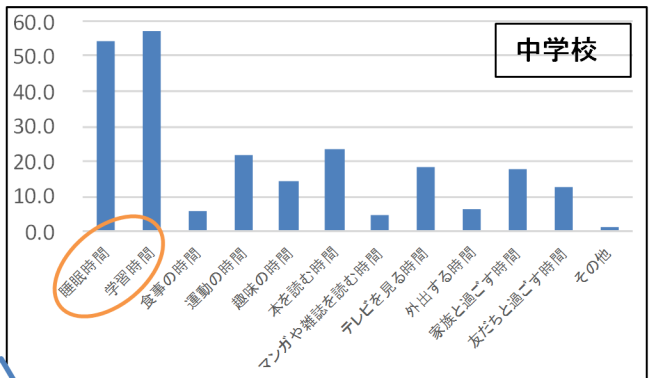
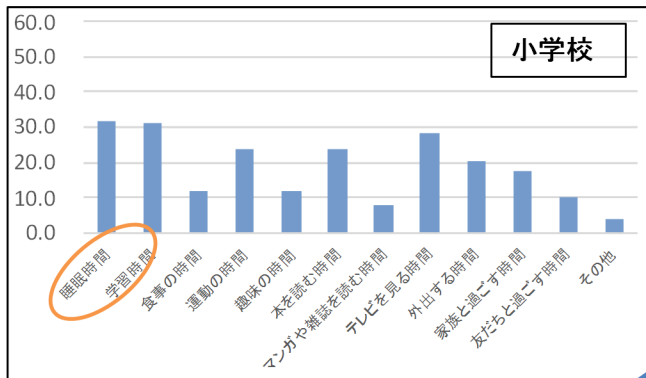
- ・①の「減った時間」の具体として、小中学校ともに、他の選択肢に比べ「睡眠時間」「学習時間」の割合が高く、スマホ、ゲーム等の利用が日常生活や学習面へ影響を及ぼしていることがわかる。
- ・令和2年度は、「テレビを見る時間」が小学校42.3%、中学校50.6%と、比較的高かったが、令和3年度は割合が下がっており、そもそも子供たちの生活スタイルの変化(触れるメディアに変化)が生じていると推測される。

① スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために減った時間が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R1	26.3	37.2
R2	32.5	40.6
R3	29.8	37.2

小学校は30%前後で推移
中学校は40%前後で推移

② スマホ、ネット、ゲーム機などを利用した為に減った時間は？(%)【複数回答】



令和2年度は、「テレビを見る時間」が小学校42.3%、中学校50.6%と、比較的高かったが、令和3年度は割合が下がっており、生活スタイルの変化(触れるメディアに変化)が生じていると推測される。

(3) スマホやネットなどを介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担があるか

- ・インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合は、小学生7.6%、中学生12.6%であった。小中学校ともに昨年度より改善している。

② 具体的な悩みや負担

- ・①の具体的な悩みや負担として、「コミュニケーションサービス内の人間関係」「友だちとのやりとりをなかなか終えられない」が小中学校ともに多い。

③ インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験をしたことがあるか

- ・インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合は、小学生9.8%、中学生8.8%であった。小学校では増加傾向、中学校では減少傾向が見られる。

④ 具体的な嫌な経験

- ・③の具体的な嫌な経験として、小学校では、「ゲームの中でトラブルになった」、中学校では、「書き込んだ内容が誤解された」が最多であった。

⑤ 相談相手

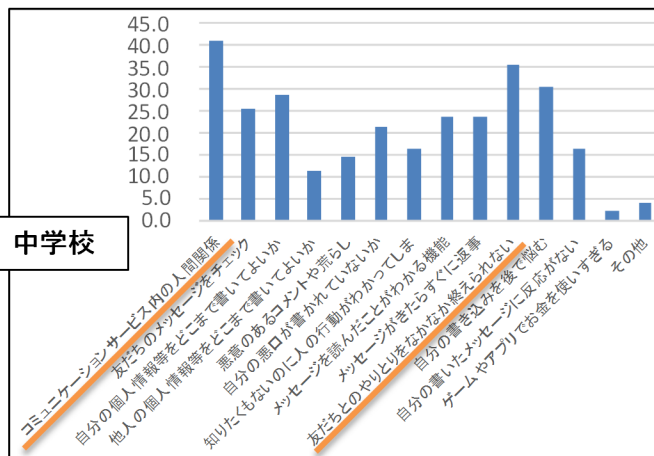
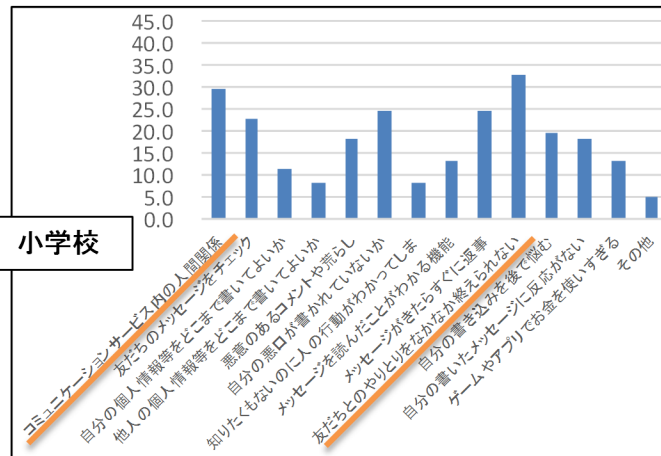
- ・小中学校ともに、40%程度が「相談していない」と回答した。
- ・小中学校ともに、複数回答で40%程度が「家族」に相談しており、スマホ等の問題では、家庭への啓発が重要であることが伺える。
- ・中学生になると、「友達」への相談が増加している。

① インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R1	6.7	13.8
R2	11.2	17.9
R3	7.6	12.6

小中学校ともに昨年度より改善

② インターネットやコミュニケーションサービスを利用することでの具体的な悩みや負担(%)【複数回答】

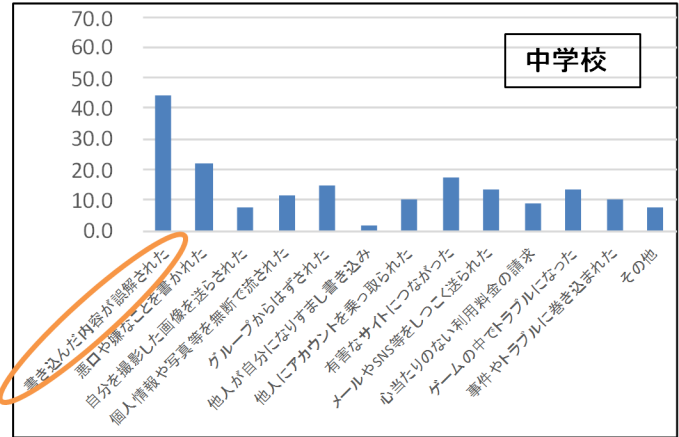
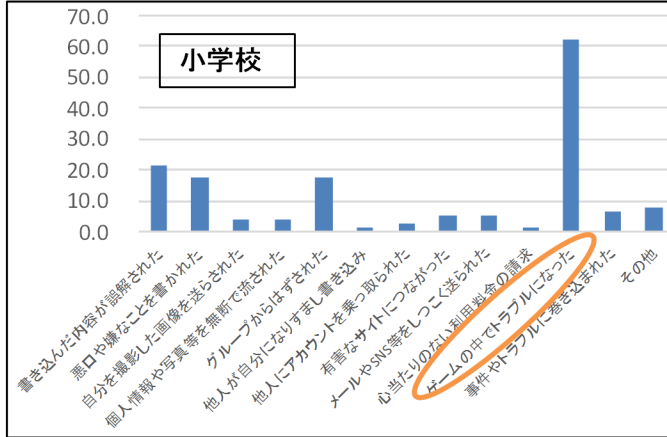


③ インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R1	6.4	14.8
R2	9.4	10.8
R3	9.8	8.8

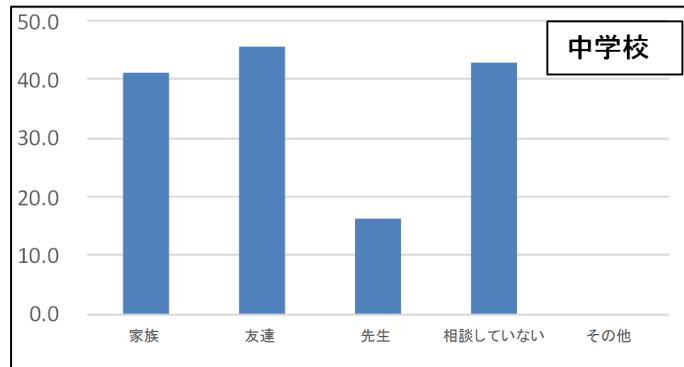
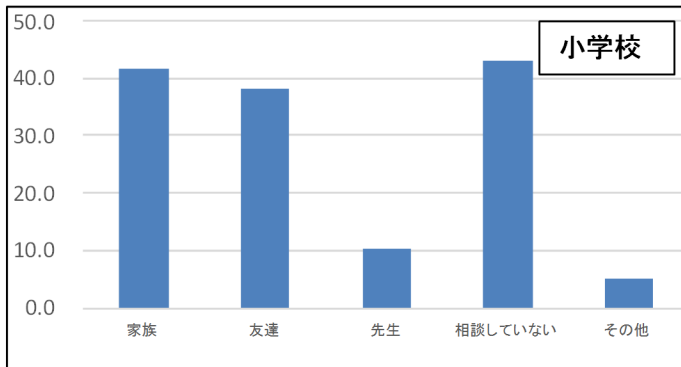
小学校で増加傾向
中学校では減少傾向

④ インターネットやコミュニケーションサービスでの具体的な嫌な経験(%)【複数回答】



誰に相談？

⑤ 嫌なことがあったときに相談した相手(%)【複数回答】



- ・小中学校ともに、40%程度が家族に相談している。家庭への啓発が重要となる。
- ・中学生になると、友達への相談が増加している。
- ・40%程度の児童生徒は相談をしていない。

(4) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

〈 概 要 〉

①家庭のルールがあるか

・スマホなどに関する家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学生64.7%、中学生55.9%であった。

②スマホに関するルールの内容

・小中学校ともに、「使用合計時間」「使用する最終時間」「使用する場面」が多くなっている。

③ルールを守れているか

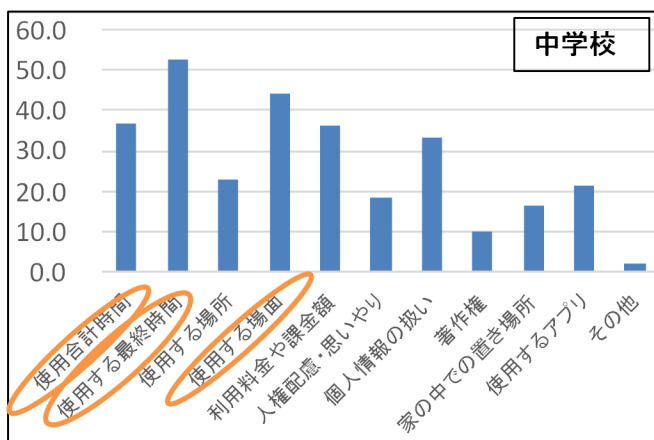
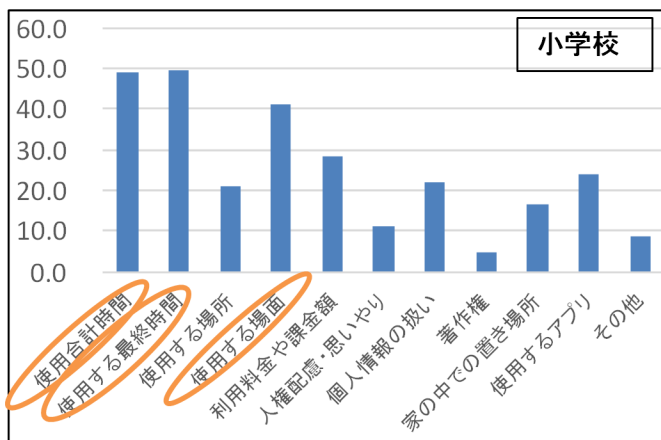
・スマホなどに関する家庭のルールを「守れている」と回答した割合は、小学校が51.7%、中学校が46.5%であった。

① スマホなどの利用に関して家庭のルールが「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R1	59.7	57.2
R2	61.9	57.5
R3	64.7	55.9

今年度、小学校では増加、中学校でやや減少

② スマホに関するルールの内容(%)【複数回答】



③ルールを守れている割合(%)※「どちらかというを守れている」を含まない

	小学校	中学校
R1	54.6	40.8
R2	47.0	42.5
R3	51.7	46.5

今年度、小中学校ともに増加

しかし、全体の約半数！

(4) スマホなどの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性などに関する学習について

〈 概 要 〉

① スマホやネット等の危険性について学んだことがあるか

・スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合は、小学生84.1%、中学生87.8%であった。

② スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法

・「学校」から学んだという回答が80%以上なのに対し、「保護者」から学んだという回答は、40～50%にとどまっている。

③ フィルタリング設定

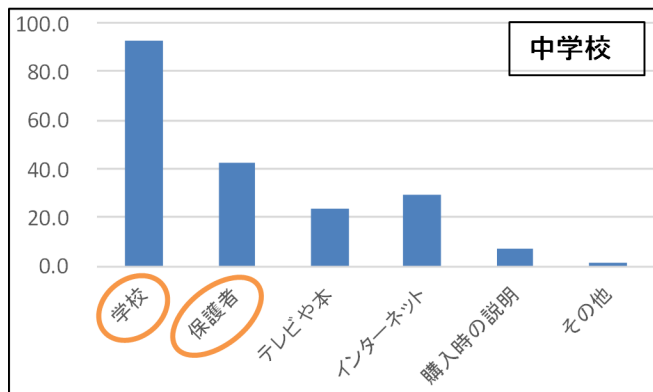
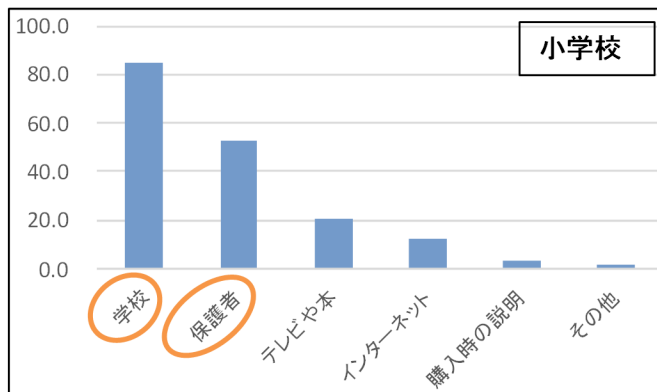
・フィルタリングを設定している割合（ネットにつながらないを含む）は、小学校が33.0%、中学校が34.6%であった。

① スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R1	83.7	84.9
R2	85.4	87.4
R3	84.1	87.8

小中学校ともに80%以上が学んだと回答

② スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法(%)【複数回答】



③ フィルタリング機能を設定している(%)

	小学校	中学校
R2	31.7	35.0
R3	33.0	34.6

※「ネットが使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

(5) 総合考察

- スマホ等の所持率は、増加し続けている。
- スマホ、ネット、ゲーム機などの利用に伴い、睡眠時間や学習時間が減ったと多くの児童生徒が自覚している。
- 持つきっかけは、「家族との連絡のため」が最多であるが、所持後の実態としては、ゲームや音楽・動画の視聴、友達との会話(SNS含む)が多くなっている。
- インターネット上などでの嫌な経験として、小学校は「ゲームの中でトラブルになった」、中学校は「書き込んだ内容が誤解された」が最多であり、発達段階により嫌な経験に差異が見られ、中学生はより多様な場面で、嫌な経験をすることが見られる。
⇒発達段階に合わせた情報モラル教育を行うことでより効果的な指導となると考えられる。
- 嫌なことがあったときには、先生より家族への相談が多いが、家庭で危険性について学ぶ機会やフィルタリング機能の設定は低調である。
⇒児童生徒を守るためには、家庭への啓発が一層重要と言える。
- 家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学校64.7%、中学校55.9%で、その内容としては、「使用合計時間」「使用する最終時間」「使用する場面」が小中学校ともに多い。
- ルールを守れている割合は、小中学校ともに増加している。

(6) 今後の取組

【短期的な対策】

- 学校独自のアンケート等を実施し、自校の児童生徒のスマホ等の使用に関する実態を継続的に把握し、『ネット依存防止マニュアル』(H30.3県教育委員会作成)等を活用して必要な取組を行う。
- 「チャレンジ・ハッピーデー」(6月・11月)を各校で実施し、児童生徒の生活がスマホやゲーム、テレビ等に縛られないよう、児童生徒、保護者へ継続的・計画的に啓発する。
※津山市の目標値(令和6年度)スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある 目標:小学校65%以上、中学校60%以上
- PTA研修会や親(保護者)学講座、地区懇談会等の機会をとらえて、地域や保護者へ情報提供を行う。

【中長期的な対策】

- 各校で『SNSノートおおさか』を活用し、児童生徒の情報モラル・リテラシーの強化を図る。
- 各校で児童生徒や保護者を交えた意見交流の機会(例えば、親(保護者)学研修講座や子育てワークショップ等)を設定して、家庭と連携したメディアコントロールの取組を進める。
また、中学校ブロックごとに情報共有を行い、取組を広げる。
- 各学校における情報モラル教育が、より主体的で児童生徒が課題意識をもてるような取組になるよう、点検を行い、必要な見直しを進める。